

## ルーニ (Luni)

今回は、ローマ遺跡のあるルーニ村に行きました。リグリア州ラ・スペツィア県オルトノーヴォにある人口 1000 人の小さな村です。賑やかなリゾート地である東リヴィエラの海岸からわずか 2 キロ内陸に入ったところにあるのですが、畑ばかりの田舎の村です。唯、ここにはローマ遺跡があるのです。

今でこそ畑ばかりの村ですが、このルーニ村は、古代ローマ時代にはローマからマルセイユに繋がる Aurelia 街道の通過点に位置し、北へはローマからイギリスまで延びる Francigena 街道に繋がる交通の要所で、しかも、リグリア海に面した港もあった大きな街 (Luna と言われていた) でした。この街は、当時 10 万人の人口を抱えていたと言われています。今でも Lunigiana と呼ばれている地域 (北はパルマとの境界線、西はラ・スペツィア、東はトスカナ州のカッラーラ。マッサまで) の全体をその配下としていました。紀元 1000 年まで街として存在していたのですが、近隣諸国との抗争だけではなく、海岸線が 2 キロ南に移動したこととマラリア・ペストの流行で、住民のほとんどは周辺の街(サルザーナ、カッラーラ、マッサ、オルトノーヴォ等)に移り住み、ついにルーニは消滅してしまいました。でも、消滅したおかげで、今でもここにローマ遺跡が残されているのです。ミラノやトリノのように街がそのまま発展していたら、ローマ時代の建物の上に新しい建物が建てられ、ローマ時代の遺物や建物は新しい建物に再利用されるか、地中深く埋もれてしまいます。

11 時過ぎにルーニ村に到着しました。さすがに片田舎です。バスはサルザーナとカッラーラを結ぶ幹線道路(現在の Aurelia 街道)に停まりますので、そこからルーニ村へは歩かなくてははいけません。ミラノは雨もやみ晴れ間が見えてきたのですが、このあたり、雨は降っていませんがまだどんよりとしています。幹線道路から村の方向に入ると周りは畑だらけで商店も何もないところですよ。おまけに、ローマ遺跡までの地図も道案内の標識もありません。道路も狭い穴だらけの舗装道路か舗装のしていない泥んこ道です。ローマ遺跡がなかったら誰も来ない様な田舎村です。それでも 10 分ほど歩くとローマ遺跡に到着です。大きな遺跡公園になって中には博物館があります。実は、この公園の入口がわかりにくく、公園の外にあった円形劇場の遺跡を見ているときに会った公園のセキュリティのおじさんにつれてきてもらったのです。公園にはセキュリティのおじさんが 2 人と受付のおばさんが 1 人のたった 3 人です。料金もたった 2 ユーロで、しかも全員がすごく親切です。きっと観光客は誰も来ないのかもしれませんが。博物館にはローマ時代の彫刻など、こんな村にあるのが不思議なほど立派ですが撮影禁止なので写真は取れません。おばさんがどこからか英文説明書のプリントを探してくれて、説明もしてくれました。もちろんイタリア語ですから 10% くらいしかわかりません。



博物館の外に出ると、広大なエリアにローマ遺跡が広がっています。今度はセキュリティのおじさんが一緒について来てくれてイタリア語で説明してくれます。親切にひとつの事をいろいろな言い方で説明してくれたので30%くらいは理解ができました。この公園はローマ時代の街の中心部に位置していて、神殿、宮殿やフォロの遺跡があり、東西に走る **Decumanus Maximus** と南北に走る **Cardo Maximus** の交点となっています。昔の港の跡もありますが、現在の海は2キロ先にありますので侘しさを感じます。ローマ遺跡は期待以上に素晴らしいものでしたが、見学ルートが数本あって順路もはっきりせず、まだちゃんと観光用にアレンジされていないようです。発掘された膨大な遺跡はまだ整備を進めている段階で、発掘していないエリアも広く、まだこの先10年以上はかかると思います。おじさんの案内で先に進むと、奥のほうにも博物館があり、鍵を開けてくれてそれら全部を見せてくれました。奥の博物館には床のモザイクと壁に描いてあったフレスコ画が展示されています。



従業員があまりに親切なのでつい長居をしてしまい、予定の戻りのバスは諦め、この時点で、サルザーナの街の観光はほとんど諦めました。遺跡公園を出ると、次は、ローマ時代の区画の外にあった円形闘技場です。ローマ時代の道伝いに歩けば直ぐのところなのですが、遺跡公園から円形闘技場方向への道は通り抜けが出来ないため、大きく村の周りを回らないといけません。15分ほど歩いて到着です。ここは、誰も管理していませんが、まだ、観光用に整備されていないために遺跡内は入ることが出来ません。それでも、かなり近くまで行けるので、周りから見てもかなりの迫力があります。ここは、7000人の収容力があったそうです。ローマのコロッセオに比べると10分の1くらいでしょうか。ラヴェンナやポンペイの円形闘技場の半分くらいの大きさです。



時間の経つのは早く既に3時近くになっていました。この村を歩きながら周囲の山々を見ますと、山の上には、建物が密集している村、塔のある城や教会を見ることが出来ます。この地域は古くからの幹線道路に近く抗争が絶えなかったのでしょうか。山の上や海岸線に多くの城が建っています。また、小さな村も周りを城壁で囲み、又は同時に山の上に位置して常に防衛を考えた造りとなっています。それが今でも残っているので、観光資源としては事欠きません。訪ねてみたいところがいっぱいあります。そんな事を考えながらバス停まで戻りました。今回は夢中でローマ遺跡を見学していましたが、気にもなりませんでしたが、雨は降りませんでしたが、どんよりと曇っていて、時より日が差すような変な天気でした。でも、もうどうでも良い帰る頃になって真っ青な青空が広がっていました。やっぱり、晴れていた方が良いですね。

最後は、何にもないルーニ村の写真です。こんな観光資源があるのですから、もうちょっと、何とか

すれば良いのに、少なくとも遺跡公園や円形闘技場への道順の標識くらいは立てても良いのではないかと思います。公園入口にたどり着けずに帰ってしまう人が多いのではないかと心配です。でも、人口がわずか 1000 人の村なので仕方ないのしょうね。とにかく、畑の水路も数百年前に作られたままの物を使っています。遺跡公園の周りでは羊の放牧もしていますし、犬も放し飼いです。おかげで、羊の糞を何度も踏んでしまいました。



今回は、ラ・スペツィアの北にある街サルザーナからバスに乗りました。サルザーナに関しては別途報告しますが、駅前にはバス停がなく西の方向に 2,3 分ほど歩いてバスターミナルに行きます。バスターミナルにはチケット売り場があり、そこで帰りの分までのチケットを購入して、バス停の位置もそこで聞いてバスに乗りました。同じバスを待っていたおじいさんが親切な人で、降りるときにルーニのバス停を教えてくださいました。所要時間は 12,3 分で料金は片道 1.15 ユーロです。このバスは 2,30 分間隔で運行しています。このバスの路線には、他にも訪ねてみたい“丘の上の小さな村やお城”が点在しています。ルーニには、サルザーナからカッラーラ方面に行く列車の駅もありますが、こんな田舎駅に停まる列車は非常に少なくほとんど使われてないようです。バス停からはこの田舎駅の地下通路を歩いてルーニ村に入ります。